

会報

みちびき

平成25年7月
第113号
東京都立学校
情緒障害
教育研究会

情緒障害教育研究会の役割

東京都立学校情緒障害教育研究会会長

練馬区立旭丘小学校長

竹淵 正人

平成二十五年四月二十三日、豊島区公会堂において、東京都公立学校情緒障害教育研究会定期総会が開催され、今年度の活動が始まりました。平成二十五年年度、引き続き都情研の会長に任命されました練馬区立旭丘小学校長竹淵正人と申します。

小川前会長をはじめ歴代の会長や諸先輩が築き上げて来た歴史ある本研究会です。会員の皆様とともに、都情研の発展のために尽力して参る所存です。微力ではありますが精一杯頑張らせていただきますので、今年度もどうぞよろしく願いました。総会には全国特別支援教育推進連盟大南英明様、社団法人日本LD学会上野一彦様、NPO法人東京都自閉症協会副理事長吉田庸子様、全国特別支援学級設置学校長会副会長阿部謙策様、全国情緒障害教育研究会会長金井尚志様、教育庁指導部特

別支援教育担当主任指導主事市川裕二様をお迎えし、専門分野からの研究の成果、国や都の施策、関係団体の取り組み等のお話がありました。貴重なお時間を頂き心より感謝いたします。

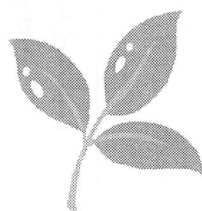
特別支援教育はこの十年間で大きな変革を迎えました。学校教育法が改正され、すべての学校において特別支援教育を行うことが明確になり、小・中学校の学習指導要領においても、個別指導計画や個別の教育支援計画が明記されるなど、通常学級における特別支援教育の推進が進められています。学校生活や社会生活に適応できない子どもが増加する中、私たちが中心となつて一人ひとりのニーズを的確に把握し、関係機関との連携を取りながら、必要な指導や支援を着実に進めて行く必要があります。

増加する情緒障害・発達障害を有する児童・生徒に対応するため、毎年多くの区市で情緒障害等学級が開級されています。平成二十四年度には、小学校一九三校、中学校九十五校となり、児童五、一七六八人、生徒一、四一八八人、情緒障害等の教育に携わる教員は一、一〇〇人を超えました。さらに、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画が実施され、東京都の特別支援教育に対する施策や国の制度改正が進みました。この第三次実施計画では、平成二十八年度より、すべての学校（小学校から）に特別支援教室を設置し、「児童・生徒が動くから教員が動く」にシフトすることになっています。特別支援教室構想については、平成二十四年度より三年間、目黒区、北区、狛江市、羽村市がモデル地区となり、実践を行つています。この事業には、都情研を代表して私も特別支援教室モデル事業評価委員の一人として会に参加しています。目黒区では、区内小学校二十二校に対し、七つのブロックに区割りし、七つの拠点校が二校から三校を巡回校として受け持ち、巡回指導を行つています。北区では

市は三校の拠点校に三校のペア校を設定し、六校で実施しています。羽村市は七校あるうち、二校が拠点校になり、三校に巡回指導を行つています。成果と課題につきまして、今後モデル地区からの報告を基に、本格実施に向けての検討が行われる予定です。都情研としてもモデル事業を行つている区市から、中間報告として発表の場を予定しています。現場の教員から見た、成果と課題について検証して行きたいと考えています。

終わりに、本会は通常学級の教員を含めた研修の場として、また、すべての特別支援教育に携わる組織の一員として、専門性の高い指導と支援が行えるような人材育成の場であればなりません。そのためには、会員同士が、互いに連携を深め、切磋琢磨しながら、都情研の活動や研修を通じ、専門性の向上を図って行くことが大切です。課題は山積していますが、会員相互の力を結集して、本会を支え、さらなる発展につながるよう、皆様の協力をよろしく願ひいたします。

今年度、拠点校の四人の教員が四校の特別支援教室へ巡回指導を実施し、平成二十六年度には拠点校を三校に増やし、八校の特別支援教室に巡回指導を実施する予定です。狛江



平成二十五年年度 都情研総会記念講演 (抄録)

「WISC-IVの結果の読み取りと支援の手立て：教師のための活用術」

国立大学法人東京学芸大学 松田 修 先生

今回は、主要な発達検査の一つとして、教育現場においても広く活用されているWISCについての講演です。本来ならば、その内容の全てを掲載したいところですが、紙面に限りがあること、検査の具体的な方法が知られてしまうと問題の機密性が損なわれてしまうことなどの理由から、全てを網羅したものでないことをご承知ください。

また、発達検査にあまり馴染みのない方にも読んでいただきやすいよう、なるべく平易な表現に変えて掲載しておりますので、最後までお読みいただき、ぜひ今後の指導に生かしていただければと願っています。

～広報部～

1. WISC-IVとはどんな検査か

WISC-IV(ワイスクーフォー)は、世界で最も広く使用された子供用知能検査(WISC-III)の最新版で、日本版は二〇一〇年に完成し、特別支援教育をはじめとする子供たちの発達やそれに関わる支援などで使われ

る主要なアセスメントツールとして普及しています。十分な訓練を積んだ専門家が実施すれば、信頼性、妥当性の高い情報が得られます。

二、検査結果から何が分かるのか

(1) 結果の活用と読み取り方

① 子供に対する理解を深める

検査結果からは、第一に、子供に認知発達の遅れはないか、あるとしたら、それは同年齢集団の子供たちと比較してどの程度なのかが理解できます(個人間差)。

第二に、子供に認知発達の偏りはないか、あるとしたら、それはどのような偏りなのかを理解できます(個人内差)。

② 子供の教育支援ニーズを探る

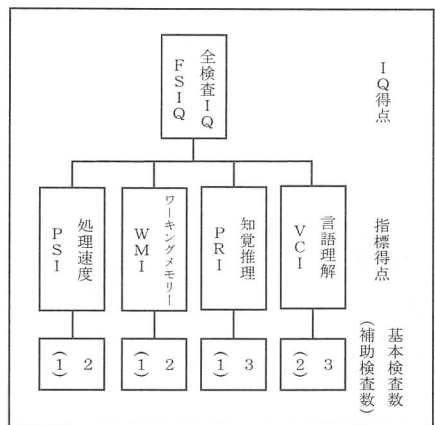
支援を考える上で、子供がなぜ分からないのか、なぜそうするのかという学習上や社会行動、もしくは情動面のつまづきの背景を探ります。

次に、どうしたら分かるのか、どうしたら特定の行動を予防、緩和できるのかを探ります。なぜそうなる

のかというメカニズムの仮説を立て、その要因の中で、変容可能な要因を見つけておくことで予防、緩和ができるかも知れません。子供の認知特性によって、ある環境の中ではつまづきがたくさん出てくるけれど、ある環境が整えられれば子供は自分の力を発揮して、学習や社会行動がきちんと送れるということがあります。環境の中には教材、先生方の指導の仕方、関わり方、教室の環境などが含まれます。

子供の弱い力を鍛えていく方法ももちろんあります。しかし、苦手なことを繰り返していきくのは辛いです、モチベーションや学習意欲が下がりがやすくなります。そこで、能力的に強さが示峻された部分、子供がもっている強いところをうまく活用して、弱いところをカバーしていくのです。例えば、視覚的な情報の認知は苦手だけど、言葉が比較的理解しやすければ、通常の教材に言葉の情報を追加してあげます。自尊心や自己評価を下げずに、子供たちに「できた」「こうやればできる」という思いをさせてあげられるように、検査から読み取ったことを教材研究や教材開発にいかしていただけたらと思います。

② WISC-IVの結果から 見えてくること



① FSIQ(全検査IQ)から分かること

指標の意味

・全検査IQ (FSIQ) は、一般的に、全般的な認知発達水準を推定できる指標

・FSIQは平均一〇〇、標準偏差(SD)を十五とする標準得点(VCI、PRI、WMI、PSIの指標得点も同様)

・FSIQが七〇未満、または一三〇以上の子どもは同年代の子供の二割ずつと推計

留意点

・FSIQを構成する四つの指標得点間の差が大きい場合には、FSIQのみで子供の認知特性を解釈すると重要な情報を見落としてしまう可能性がある。

FSIQは、WISC-IVの中で最も重要な指標です。これは、その子供の全般的な認知発達の水準を推定できる指標です。注意していただきたいのは、このFSIQを構成している四つの指標得点、例えばVCIとPRIに大きな差があるという場合には、FSIQだけで子供の認知発達の水準を理解しようとすると、大事な情報を見落してしまう可能性が有ることです。例えば一点の子供が一〇人、五点の子供が一〇人いるとします。平均すると三点です。一点と五点到分布が偏っているのに、平均が三点というところで、三点の子供に合った教材を持つていても、その教材を使える三点の子供は一人もいないということがあり得ます。このように、指標得点の乖離が大きい場合は、FSIQだけで解釈するのではなく、各指標得点の水準を丁寧に見ていただきたいと思います。

②VCI (言語理解) から分かること

指標の意味

- ・ VCIは、語彙の豊かさや習得知識、社会規範、常識、言葉による推理力(状況理解、予測、分類、ルールの発見など)を反映する指標
- ・ 言語理解、言語表現の力も結果に反映

VCIが弱い児童生徒の特徴

- ・ 言葉による理解(聞く・読む)、表現(話す、書く)、推論(言葉による推論)のつまずき

指導の基本指針

- ・ 説明や指示は短く、簡潔に
- ・ 指示が正確に伝わったかどうか確認
- ・ 基礎学習習得のための個別指導

VCIが弱い子供への指導の大原則は、「説明や指示は短く、簡潔に行う」ことです。「指示が正確に伝わったかどうか確認すること」を心がけることも大切です。「〇〇君分かった?」と聞いてあげるだけでもだいぶ違うと思います。

また、子供が既に知っている言葉と新たに教える教材の内容、指導内容を上手に結び付けて、もともと持っている知識で新しい知識を学習しやすいようにします。

VCIの弱い子供は、学年が上がれば上がるほど、同年代の子供と比べて習得知識の弱さが目立ってくるものとあります。基礎学習の習得のためには、その子供に合ったペースでじっくりと取り組む個別指導をして、将来の学習につまずかない、もしくは少しでも緩和するような支援が必要だろうと思います。

③PRI (知覚推理) から分かること

指標の意味

※注

- ・ PRIは、流動性推理や視覚情報処理を反映する指標
- ・ 視覚情報による推理、視覚運動協応(手の器用さ)など

PRIが弱い児童生徒の特徴

- ・ 分類やパターンの理解、複雑な図や地図の読み取り、算数・数学などに推論系の問題などのつまずき
- ・ 図工や作業が苦手、遅いなど

指導の基本指針

- ・ 目標や手順を明示し、見通しをもたせる支援
- ・ 作業のための十分な時間の確保

PRIが弱い子供への指導の基本指針

針は、目標や手順を明示し、見通しをもたせることです。場合によっては、目標や手順を先生方がしっかりと示してあげることが必要かも知れません。もしくは、目標や手順を考えるプロセスを一緒にやってやっていきます。どう考えたらいいか、どうしたらいいのかを子供が考えられるように、枠組みをしっかりと付けてあげます。構造化などとよく言われますが、そういうことも含めて、具体的な見通しをもちやすくしてあげることが大事なポイントです。

また、できるだけ作業が遅い子供がいます。手先がなかなか器用に動

かないので、皆と同じ時間だとしてしまうまいけません。図工の時間などでは、作業のための十分な時間を与える工夫が必要です。その日の作業は、その子供でも達成可能な容量にします。これは基本的にとどの子供にも大事なことなのではないかと思えます。

④WMI (ワーキングメモリー) から分かること

指標の意味

- ・ WMIは、聴覚を通じて入力された情報の中から、処理に必要な情報を選別し、それらを保持しながら処理を行う能力を反映

WMIの弱い児童生徒の特徴

- ・ 読み、書きの弱さ、暗算、九九などのつまずき
- ・ 目的を見失う、課題の最初はできているが途中で止まる
- ・ 落ち着きがない、衝動を抑えられない、不注意
- ・ 指示が入りにくい、聞き間違えによる誤解、聞き漏らしなど

指導の基本指針

- ・ ワーキングメモリーの負荷の軽減
- ・ 指示は短く、簡潔に、そして繰り返す(リマインダー)、指示や説明を行う前に注意を向けさせる(ディレクション)
- ・ 学習に必要な刺激は可能な限り排除するなど

注：流動性推理＝自動的に処理することのできない比較的新しい課題に直面したときに機能する知的な活動。

WMI の弱い子供への指導の基本指針としては、一度にたくさん伝えないということです。大原則は、ワーキングメモリーの負荷をいかに減らしてあげるかということです。

そのためには、指示は短く簡潔に、そして繰り返すことが大事です。ただし、その時にいろいろな表現で言い換えてしまうと、余計に混乱する子供もいるので注意が必要です。

また、子供たちが学習や行動の中でどうしたらいいのかということに気付く、あるいは子供たちが忘れていたことを思い出すような手がかりを意図的に提示する働きかけ(リマインダー)、環境整備も大事です。

更にもう一つ大事なものは、いくら短く説明しても、子供が聞く姿勢になっていないと、説明してもほとんど指示が入らないということです。これはどの子供もそうですが、特にワーキングメモリーの弱い子供は、色々な刺激の中で、注意をうまく先生に向けられません。指示や説明を行う前にしっかりと注意をこちらに向けさせます(ディレクション)。「〇〇君」と一声かけるだけでも、だいぶ違うかも知れません。

教室の中は子供たちにとつては色々な刺激があります。例えば、水槽のポンプの音が気になって何度も見に行く子供がいたり、黒板の周りにある絵に注意が向いてしまう子供がいたりします。可能な限り、学習

に必要な刺激は排除する必要があります。

⑤ PSI (処理速度) から分かること

指標の意味

・ PSI は情報処理のスピードや筆記能力などを反映

PSI の弱い児童生徒の特徴

・ 板書の書き取り、課題を終えるのが遅い

・ 集団のペースに合わせられない

・ せかされると入力ミスが多い、または雑になるなど

指導の基本指針

・ プリント配布、プリントの工夫によって書く負担を減らす

・ 十分な時間を与える、せかさない

・ ICT 活用 (パソコン、ICレコーダー、デジカメ)

帰りの会の時に書く連絡帳でつまづく子供がいます。宿題を書くというのがなかなかうまくできないのです。そういう子供の場合には、プリントで伝えてあげるとか、書字の負担を減らす(穴埋め式、丸を付けるだけ)とか、書く時にはクラス全体が集中できるようにしてあげるとか、色々な工夫があってもいいと思います。もしくは、十分な時間を与えて、本当にもっている力が発揮できるようにしてあげます。せかさないといいのも大事なことです。

また、今はいろいろな ICT があります。小学校や中学校でも、もつと取り入れて欲しいと思います。

(3) 指導の総合的解釈と支援仮説

今までは一つ一つの指標についてお話したのですが、総合的に解釈するという視点もとても大事です。算数の文章問題のプロセスを見てみます。

① まず、問題文を理解します。

ここには、言語理解 (VCI) が関わっています。②次に、自分が習得しているいろいろな知識や公式のどれを使ったらいいのか、あるいはどういった考え方で問題を解いたらいいのかを推論します。これは知覚推理 (PRI) の力が関わっています。図形とか幾何学の問題だったら、視覚的な認知も必要となるかも知れません。③次に、計算をします。ワーキングメモリー (WMI) などがこの部分に関わります。④最後に、解答をします。試験のように制限時間がある場合には、処理速度 (PSI) なども関係があるかも知れません。

四つの段階のどの部分でつまづいていても、最終結果としては、正答に至りません。私たちは最終結果だけを見て、できるとかできないと見がちですが、どこでつまづいているのかをもう少しきちんと見ていく視点も大事です。

①問題を読解する部分でつまづいているのだったら、文章、問題文を分解して、簡潔にしてあげます。どう理解したらいいのか、手続きを教えてあげます。試験では難しいかも知れませんが、通常の指導などでこのような支援を行います。

②推論する部分にすぎがあるなら、問題の理解や組み立てを言葉で説明します。図だけではなく、言葉も使って説明してあげた方が分かるかも知れません。

③計算する処理が苦手ならワーキングメモリーに負荷がかからないように静穏な環境を整えます。学校で電卓を使うということも子供たちの生活スキルとしてはあってもいいかも知れません。

④解答する部分でつまづいているのなら、問題の量を減らしてあげるとか、時間を増やしてあげるとか、いろいろな対応が考えられます。

一つの指標のここが弱かったらこの対応ではなくて、総合的に子供の指標を見て、実際に今何が起きているのかを見る必要があります。ですから、検査の結果と、実際に先生方が見ている、この子供はどんな時にうまくいってどんな時にうまくいきにくいのかという情報を照合しながら子供を理解していったらと思います。

(4)教師の「気づき」の背景にある
認知特性と指導の指針

①「どうして他の子よりも板書を写すことが遅いのだろうか？」
目で文字を追う力やワーキングメモリーの弱さが書字技能（正確さ、スピード）の背景かも知れない↓板書の量を減らす、穴埋め式のプリント、ICT機器の活用など

②「どうしてこの子は分かっているはずなのに、うまく発表できないのだろうか？」
推理力はあるが、語彙が少ないから表現が苦手なのかも知れない↓語彙学習の機会を作る、授業内容に合わせた単語リストを用意するなど

③「どうしてこの子は、国語はできるのに算数だけ苦手なのだろうか？」
ワーキングメモリーの弱さによる処理や抑制機能の弱さがあるかも知れない↓子どものペースで学習できる取り出し指導や個別指導の機会を提供する。

または、推論する力の弱さが文章題の理解や立式を妨げているのかも知れない↓問題の理解や組み立て方を言葉で説明するなど

④「どうしてこの子は、忘れ物が多いのだろうか？」
注意の散りやすさや記憶の弱さから忘れ物が多いのかも知れない↓メモリーエイド（チェックリスト、付箋の活用）、一度にたくさん指示しないなど

三、まとめ

特別支援教育の基本は、個に応じた指導であり、認知特性は個を理解する最も重要な情報です。そのためには、専門家によるアセスメント（実態把握）が必要です。しかし、実態把握がちゃんとできてこそそのアセスメントから得られた「情報」は、教師による「指導」を通じてはじめて子どものために役立ちます。

心理検査を行う専門家の腕の見せ所は、検査結果を指導に役立つ情報に正しく翻訳（解釈）できるか、そして、その情報を教師が利用可能な情報として提供できるかどうか（報告）です。そして、教師の腕の見せ所は、専門家から得た「情報」をどう具体的な指導に役立てるかです。今日の原則を頭に入れながら、是非、子供の指導につながるように役立てていただけたらと思います。

お知らせ

平成二十五年度
設置校部夏季集中研修会
練馬区立豊玉南小学校 坂井英子

*期日

八月七日（水）～ 八日（木）

*会場

千代田区立千代田小学校

*テーマ

「これからの情緒障害教育のあり方」

*内容

八月七日（水）

◇講演会

「通常学級における読み書きにつまずきのある子への支援」

東京学芸大学教授 小池敏英先生

八月八日（木）

◇公開ディスカッション

「東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画 各モデル地区の取り組みと巡回指導について」

◇グループ討議

*情緒障害学級担任向けの研修会です。参加申し込みが必要です。詳しくは、各学級あてに案内を出しますので、ご覧下さい。

第四十六回

全国情緒障害教育研究協議会

北海道大会のご案内

全情研事務局長 有澤直人

*大会テーマ

「連続性のある多様な学びの場の充実を目指して～一人一人の教育的ニーズをとらえ、自立と社会参加につながる指導を探る～」

*期日

平成二十五年七月三十日（火）

三十一日（水）

*会場

ホテルライフォート札幌

*内容

◇記念講演

「どの子もこぼれ落とさない授業づくり」

岡山大学教授 佐藤 暁氏

◇基調講演

「これからの特別支援教育の課題～インクルーシブ教育システムの構築に向けて～」

文部科学省特別支援教育調査官 丹野哲也氏

◇シンポジウム

・コーディネーター
札幌学院大学教授 塩見啓一氏

・シンポジスト

札幌市立藤の沢小学校長 清兼孝生氏、東京都立港特別支援学校川上康則氏

◇分科会（6分科会）

平成二十五年年度

定期総会を終えて

台東区立平成小学校 佐野圭一

四月二十三日(火)、豊島公会堂において、平成二十五年年度都情研定期総会が開かれました。昨年度に引き続き、練馬区立旭丘小学校長竹淵正人先生が会長に承認され、たほか、新たに役員の先生方が承認されました。また、事業報告、決算報告、事業計画、予算案などが審議・承認されました。

今回の記念講演は、東京学芸大学准教授の松田修先生より、「WISC-IVの結果の読み取りと支援の手立て」教師のための活用術」という演題でご講演いただきました。今後の発達検査の標準となるであろうWISC-IVとはどのような検査なのか、WISC-IIIとの違い、検査結果から読み取れることなどについて、大変分かりやすくお話いただき、今後の児童生徒の実態をとらえる上で多くの事を学ぶことができました。

本年度は、第四十六回全国情緒障害教育研究協議会全国大会が、北海道札幌市で開催されます。是非ご参加ください。

平成25年度 新設学級、再開学級、休級学級等一覧

Table with 5 columns: 区市町村, 学校名, 学級名, 固定, 学級名. Lists school changes for elementary schools across various districts like 文京区, 目黒区, etc.

Table with 5 columns: 区市町村, 学校名, 学級名, 固定, 学級名. Lists school changes for middle schools and special support classes across districts like 東久留米市, 多摩市, etc.

平成25年度 予算 (案)

(単位:円)

Summary budget table for FY25 with 3 rows: 収入 (3,416,343), 支出 (3,416,343), 差引残高 (0).

(収入内訳)

Detailed income breakdown table for FY25 with 4 rows: 会費 (1,539,000), 繰越金 (1,657,391), 助成費 (219,702), 利息 (250).

(支出内訳)

Detailed expense breakdown table for FY25 with 10 rows: 運営費 (270,000), 事務費 (267,900), 会議費 (2,100), 事業費 (1,795,000), etc.

平成24年度 決算報告

(単位:円)

Summary budget table for FY24 with 3 rows: 収入 (3,036,348), 支出 (1,378,957), 差引残高 (1,657,391).

(収入内訳)

Detailed income breakdown table for FY24 with 5 rows: 会費 (1,540,980), 繰越金 (1,277,173), 助成費 (297,360), etc.

(支出内訳)

Detailed expense breakdown table for FY24 with 10 rows: 運営費 (270,000), 事務費 (267,900), 会議費 (2,100), 事業費 (1,745,000), etc.

平成25年3月31日

東京都立学校情緒障害教育研究会 会長 竹淵正人 印

副会長(会計) 岡 敬子 印

会計 力武国広 印

平成25年3月31日

監査の結果、正確であることを認めます。

東京都立学校情緒障害教育研究会 監事 小川 深雪

編集後記

広報に関するご意見、ご感想がありましたらお寄せください。

☎042-488-2861

調布市立柏野小学校

編集・発行 広報部

印刷 (株)ワールドミーティング